

かほだより

《市町村・関係者の皆様へ》

引き続き

野生イノシシにおける豚熱対策をお願いします

本年6月、国の検討会で野生イノシシにおける豚熱対策についての議論が以下のように行われました。

- ・現行の対策が一定の効果
- ・依然として感染イノシシが継続確認
- ・養豚場への豚熱感染リスクとなっている



そこで、国から野生イノシシにおける豚熱対策の継続があらためて通知されました。

1 野生イノシシの豚熱対策の継続について

現在実施している野生イノシシ対策については、(1)～(3)に留意した上、引き続きご協力をお願いします。

- (1) 野生イノシシの捕獲・経口ワクチン散布の継続
- (2) 豚農場周辺地域等において、必要に応じて経口ワクチンの散布を検討
- (3) クマからの作業者の安全確保



2 狩猟・捕獲、ワクチン散布等に当たっての豚熱対策について

豚熱感染区域とそれ以外を行き来することはできるだけ自粛し、やむを得ず行き来する場合は、衛生対策を徹底してください。

👉 裏面「捕獲作業従事者のみなさまへ」を参照



捕獲作業従事者のみなさまへ

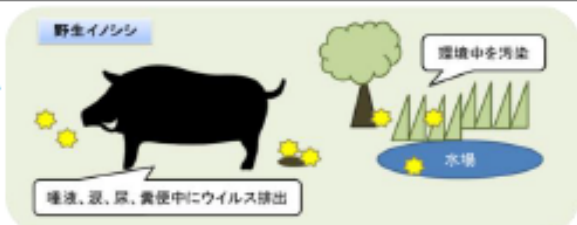
～豚熱対策のお願い～

別添2

- ・イノシシで豚熱（旧称：豚コレラ）が発生すると、**地域の畜産業・狩猟へ大きな影響**があります。
- ・イノシシで豚熱の感染が「ない地域では**清浄性維持**」「ある地域では**早期の清浄化**」のために！
- ・皆さん一人一人の、洗浄・消毒対応等の協力が重要です！！

ウイルスがいる場所

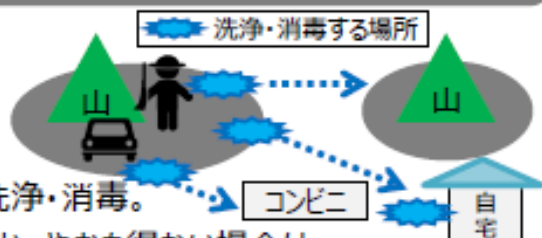
- 豚熱感染イノシシが確認された地域は特に注意が必要です。
- 感染したイノシシは糞便中などにウイルスを排出し、環境中(土壌、植物など)を汚染します。
- 環境中にウイルスがいる山に入ると、靴、車両のタイヤ、猟具等に付着して豚熱ウイルスを拡散させるおそれがあります。



感染を広げないために必要な行動

いつ、何をすればいいの？

- 捕獲作業実施後、大きく移動する際に「**洗浄・消毒**」を実施。
(具体的には、別の山へ移動するとき、山を降りるとき、移動途中でコンビニなどに立ち寄るときなど。)
- 自家消費用の解体時には、使い捨て手袋、衛生的な着衣(レインコート、防護服等)を使用。※レインコートは使い捨て又は洗浄・消毒。
- 解体後の内臓等は、**放置せず二重に袋につつま衛生的に処理するか、やむを得ない場合は消毒等を適切に行い、公衆衛生の確保等に十分に配慮した上で適切に埋置する。**
- 豚熱感染確認区域から、自家消費用を含む肉等を持ち出さない。
※「豚熱感染確認区域におけるジビエ利用の手引き」に従ってジビエ利用する場合は除く。
- 自宅に帰ってから特に念入りに「**洗浄・消毒**」を実施。次の猟場等にウイルスを持ち込まない。



消毒のポイント（場所、ものなど）



洗浄・消毒の方法

- 靴の裏、タイヤ周り
→ ブラシ・水などで土などの汚れを落とし、消毒する。
(ウイルスは肉や血液だけではなく、糞尿、唾液等が混じっている土などにも含まれている可能性があります。靴裏やタイヤの溝の土などをブラシ等を使いながら逆性石けん液などで洗い流し、確実に洗浄・消毒します。)
- 器具（ナイフなど）
→ ブラシ・水などで血液などの汚れを落とし、消毒する。
- 消毒方法
→ アルコールドレスプレーや逆性石けん液等を噴霧器、じょうろ等でかけて行います。
手指や衣服、猟具・ナイフなどで消毒薬のニオイや薬の残存が気になる場合はアルコールで。
※消毒薬は、薬局・ドラッグストア等で販売されています。



※事業等で、高リスクな場所を複数訪問する場合等での衛生対策は自治体担当部局の指示に従ってください。
※死亡イノシシ発見時は、接触を避け、自治体で検査等を行う可能性があることから、各自治体へ連絡してください。